

2駅でバリアフリー調査

常磐線 移転新設の山下、坂元駅

12月10日に運転が再開されるJR常磐線の相馬（福島県相馬市）―浜吉田（亘理町）間のうち、山元町で内陸に移転新設された山下、坂元両駅で、障害者らによるバリアフリー設備の調査が行われた。調査の結果や参加者の意見は今月中をめどに取りまとめ、

要望書としてJR東日本仙台支社に提出されるといふ。

調査は、社会福祉法人「ありのまま舎」（仙台市太白区）が呼びかけ、障害者の自立生活を支援する団体「CILたすけっと」（同区）や県視覚障害者福祉協会など5団体から計17人が

参加。一行は、駅前広場のバス乗り場の段差や、駅構内の誘導音声、エレベーターや待合室の広さ、点字ブロックの配置などを調べ、同支社の職員らに質問していた。

電動車いすで生活する仙台市太白区の高橋愛実さん（25）は「設備は整っているが、無人の時間帯は降車できないのが不安。障害者に対応できれば、高齢者から子供連れまで、みんなが安心して使えると思う」と話していた。